

日本原子力学会 核燃料部会
平成 28 年度第三回運営小委員会議事録

日時 : 平成 28 年 10 月 24 日 (月) 13:30~17:00

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : 湊部会長、伊藤副部会長、池田委員、岩元委員、上田委員、宇埜委員、尾形委員、草ヶ谷委員、島田委員、谷口委員、坂井 (手島委員代理)、永瀬委員、原田委員、佐合、大矢 (藤塚委員代理)、巻上委員、河原 (記)

議事

1. 前回運営小委員会議事録等の確認

河原庶務幹事から、資料 1 により、前回 (平成 28 年度第二回) 運営小委員会議事録が提示された。コメント反映済みであり、説明は省略した。

2. 委員の交代について

河原庶務幹事から、資料 2 により以下の委員の交代について報告された。今後、諸手続き完了後、核燃料部会全体にメールにて審議を行うこととした。
・四国電力 : 藤塚 信典 委員 → 武田 高明 委員

3. 平成 28 年度予算の支出予想

河原庶務幹事から、資料 3 により、平成 28 年度の予算執行状況について報告された。また、平成 29 年度の予算については、例年 11 月初旬に学会事務局から作成依頼があることから、メールで運営小委員会の確認を受けることとした。

4. 平成 29 年度 核燃料部会業務分担について

河原庶務幹事から、資料 4 により、平成 28 年度の業務分担案が報告された。一方で、平成 29 年度業務担当予定の委員が一部欠席であったことから、資料 4 について、メールで運営小委員会の確認を受けることとした。

5. 昨年のアジアジルコニウム会議での余剰金寄付手続きの件

河原庶務幹事から、資料 5 により、昨年の 2015 年 10 月 5 日~9 日に福井大学付属国際原子力工学研究所で行われた第 3 回アジアジルコニウム会議での余剰金について、核燃料部会に寄付することについて報告され、今後事務手続きを進めることを確認した。

6. 平成 28 年度 夏期セミナー報告

坂井氏 (手島委員代理) から、資料 6 により、本年 7 月 6 日~8 日にかけて実施した夏期セミナーの結果について、若手研究者や学生の参加が多く見られ、ポスターセッションも盛況であった旨、報告された。また、電子媒体を

活用したことによるテキスト印刷費用の低減などにより、収支としては黒字であったことを確認した。

7. 平成 29 年度 第 30 回 核燃料・夏期セミナーについて

上田委員から、資料 7 により、平成 29 年度夏期セミナーの準備状況が報告された。開催時期について、学生の参加しやすさを中心に議論され、本年度同様、7 月上旬で開催する方向で進めることとし、開催場所については、提案どおり青森県で実施することとした。予算案について、本日の議論を踏まえ見直しの上、メールにて運営小委員会で確認することとした。

部会長から、青森県には日本原燃施設や研究所などがあり、魅力ある提案をすることで参加者を増やしたい旨要望があった。

8. 「部会等運営委員会」の報告及び検討課題

伊藤副部会長から、資料 8 により、本年 10 月 4 日に開催された「2016 年度第 1 回部会等運営委員会」の内容について報告された。

特に、学生に魅力ある取り組みとして、学生表彰制度を企画することについて、各部会で検討することになっており、他の部会の検討状況を踏まえて、引き続き検討していくことが確認された。

9. 核燃料部会報 (No. 52-1) について

原田委員から、資料 9 により、核燃料部会報 (No. 52-1) について本年 12 月末に発行することで準備を進めている旨報告された。本年 9 月の秋の大会における企画セッションの内容については、尾形委員より東大阿部先生の意向を確認した上で進めていくこととした。また、部会長より国際会議紹介において、11 月の第 2 週目に開催される「NuMat2016」の結果報告がいいのではないかとの提案があり、永瀬委員にて対応することとなった。

次々回の核燃料部会報 (No52-2) の執筆者については、次回運営小委員会までに原田委員にて調整していくことが確認された。

10. ポジションステートメント修正案について

尾形委員から、資料 10 により、ポジションステートメント「燃料デブリ」の修正案が報告された。11 月の第 1 週を目途に運営小委員会で確認した上で、ポジションステートメント WG に修正版を提出することとした。

11. 部会賞選考小委の委員選出と審査の進め方について

尾形委員から、資料 11 により、部会賞の募集 (10 月 7 日~11 月 18 日) 依頼をしていることが報告された。また、選考小委員会の委員 (案) が示され、伊藤副部会長が委員長を務めることが決定した。その他の委員については、尾形委員より個別で打診することとなった。

1 2. 10/11 企画小委員会報告

尾形委員から、資料 12 により、10 月 11 日に開催された企画小委員会の内容が報告された。

2017 年度春の企画セッションについては、震災以降、主に福島第一関連の議題を取り扱ってきたが、その他の議題も重要であることから、次回は廃棄物低減化（MA 消滅）のための技術課題を発表する方向で調整を行うことが確認された。

また、学会からの学会誌「ATOMO Σ」の連載講座記事の提案及び執筆依頼については、学会に 10 月 31 日まで回答する必要があり、現段階では執筆を見合わせる旨回答するものの、執筆については運営小委員会で前向きに検討していくことで認識の共有化が図られた。

1 3. 国際会議 HOTLAB 2017 の日本開催について

部会長から、資料 13 により、「国際会議 HOTLAB」が 2017 年 9 月 17 日（日）～22 日（金）の間、水戸で開催することが報告された。2007 年から、欧州域内に限らず世界各国が参加する会議となっており、来年はアジアで初の開催となる。JAEA を中心に関係者と組織委員会を設置し、核燃料部会の共催とする方向で進めることが報告された。

1 4. 第四回運営小委員会について

次回の第四回運営小委員会の日程は、平成 29 年 2 月 17 日（金）の午後、日本原子力学会事務局会議室で開催する予定とした。

1 5. 結言

部会長から、本日の議論内容を踏まえた対応、来年度の役割分担等、これから年度末に向けてしっかりやっていきましょうと激励があった。

以 上